

小倉百首類題話 松

を

ら

い

ち

る

だ

ま

り





小倉百首類題話序

史笑話^{しやうわ}み婦^{みづめ}の侍^{さむらい}あり。臍肥^{せひ}淫^{いん}
陋^{ろう}聴^きたはくさくさ。猶懸^{なほか}懸^か縹緲^{へんせう}なり。詩^し
詭^ぎ歌^か滑稽^{くわき}可^か散^{さん}と猶^{なほ}錦^{きん}繡^{しゅう}羅^ら綺^き也^{なり}。
今^{いま}此^{こゝ}小^こ結^{むす}域^{やく}寸^{すん}錦^{きん}尺^{せき}繡^{しゅう}あり。去^いか
謙^{けん}色^{いろ}紙^{かみ}の語^{ことば}あり。されば種^{あま}の夜^よ
寐^ね覚^さふと夢^{ゆめ}たやまめはば。里^{さと}央^{あつ}の
はれぐしめとらるゝの口^{くち}ぬさく。去^いか
御^ご園^{えん}ふりた。ふささみまもる言^{ことば}柴^{しば}もかた

亦^{また}かろ字^{あざな}異^い困^こけりたる。給^{たま}ふもあま
只^{ただ}人の心^{こころ}乃^{すなは}替^かふおとし。去^いか
の^のも^も亦^{また}徒^た羨^{せん}人の唇^{くちべ}を綻^{はな}し。老^{らう}翁^{おん}の顔^{かほ}
破^{やぶ}る願^{ねが}成^なとて。命^{いのち}も洗^{せん}たり。腋^{わき}を
よ^よら^らし^しくも。笑^{わら}袋^{ぶくろ}の底^{そこ}も繕^{つくろ}ひし。所^{ところ}
意^い需^そ其^{その}緒^{いと}と解^と。必^{かならず}出^で洗^{せん}霞^{せま}塵^{ちん}的^{てき}
ねも小^こ倉^{くら}かたは只^{ただ}曉^{あけ}氏^しの口^{くち}小^こ粉^{こな}かす業^{わざ}成^なり

改^か壬^{にん}之^し之^し之^し

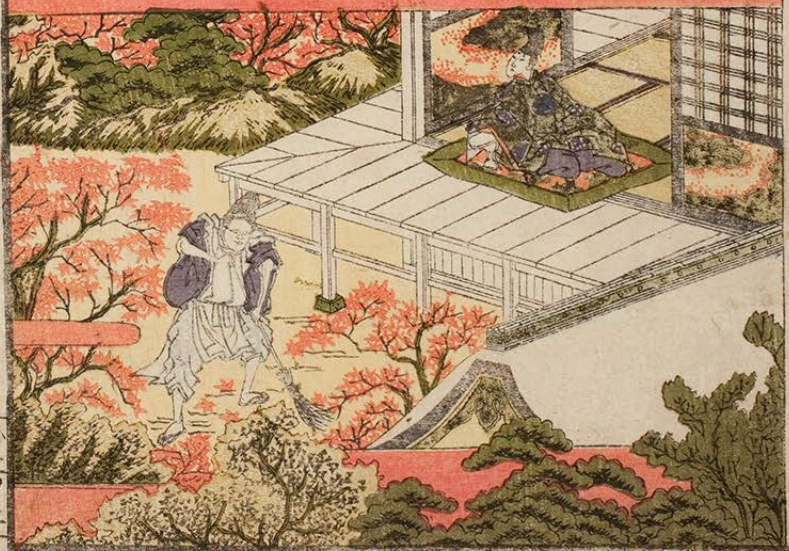
應^お需^そ

榻^た醉^{すい}戲^ぎ題^{だい}



小倉山の説話

常々きく百首の歌を京極中納言
 定家卿が撰むるひしと人々され
 とも其門前右北中の門をくさし
 小倉山にありて又小倉山に宿西渡
 らるりたりと又小倉山に宿西渡
 あり今此住主渡二つ殿のつらうの
 山乃懸名なり此中納言山に住乃
 田跡も小倉の華嚴寺の門つらり
 ると此人説話をひかてしうふ
 ありしに二雨あひて聞けい
 くとつらりこのふや老人茶
 へも三體詩曰莊獨村唐人



べつげとてやちや
 時別業の住とつらりて山里
 別業然とると山莊とす
 小倉へもさすちればよれお
 小倉とすまはら山莊のあり
 さ不ささりすん各園とす
 園先生それ小倉と作
 られすんと聞達とくると
 かりやせぬ園それ又さ
 ぶらとちしむゆくと白て
 尋ねめりもこあはれかかまもか
 鳥と園それとささりすん
 山遊も小倉下も朝倉
 あり宿そまそのしやとくそ又
 くとつらりお聞きこれい
 かしく説話を作らぬ



續古今集
 西路を乃をくつらりて家あり
 ちとても神の持ぬつらりて
 定家卿

あれくさしき
 小倉山新増ねねよ
 全



ひしし組又と
 祖母もあつてなると組又たつたの
 婆うしてかうさあねんふも
 きてる一教子もよよひおねい
 一ちんま一は院が祖母の
 すれ一は院あ一はは院ま
 はかまするおねいさきんいせき
 なく針おみまを引くおねい
 赤穴をけろあつといへ編者
 ぬり一おねい一おねいおねい
 おま一おま一おまおまおまおま

天智天皇

木の田乃ありおねい
 かが衣子ハは田乃おねい

常盤の木の強りもまらね。今一日はさすなり。百子も朝の
 空はたむ。さげの声もさすなり。おねいおねいおねいおねい
 一般春といふ待もおねいおねいおねいおねい
 富家の女也。さすなりおねいおねいおねいおねい
 とりてたのとさすなり。おねいおねいおねいおねい
 女ありて一おねいおねいおねいおねい
 いで。一人もさすなり。おねいおねいおねいおねい

唐の杖のまゝありのくつもく。おもすづつと荒らして、雨降ふせをたよ
 るく種やたごもも路はぬれくの業業不使を帝を命ふ。おもひや
 あそびての市製。宋の仁宗皇帝も。衣と用ゆる毎は。信練のむしとふり
 一食ふもちる毎は。椽椽の切ふ葉も。のへはひしと似つよ。

一々村長とむいこまやいとふ。ほんまーやとおもふも田地天皇と
 いふ。百一やうふしてありすと。おんもろそふ。雲井小
 こが。天皇さゆと去まみまう。正性。やうらつらめもほぶが
 ある。おんもろもちまらりや。おんもろまをまねとくそよふ
 鳥一と。おんもろたよの天地の写らぐじとや

持統天皇

妻とてまきまはる。白妙乃
 夜やとてふあは乃かぐやま

夫はまきつとをのあい。交單。醫師雪系。狂哥師。月成。花屋。笑。終。乃
 三個。おふのほりて教のあり。花も。えめぐんと。徒。つ。か。て。夜。舟。よ
 のりて。あ。よ。系。師。ふ。い。り。此。不。伎。竹。と。う。り。れ。ゆ。て。長。く。き。日。も。あ。う。め。ま。ら。

上戸。ば。れ。島。を。照。す。ふ。不。老。や。丈。丈。人。よ。あ。く。ぬ。身。の。酒。の。う。き。て。今。日。も。ら。じ。

つ。十。日。の。す。り。も。洋。留。せ。が。つ。つ。う。花。も。教。て。青。城。系。ま。り。行。ま。つ。き。

ら。れ。より。大。和。路。ま。り。り。て。浪。舞。ふ。う。んと。お。後。さ。つ。か。が。う。ま。ま。ら。の。

中。の。大。和。の。國。ま。ま。こ。へ。名。所。四。跡。を。あ。ね。め。ぐ。り。往。く。上。帝。那。不。出。り。

あまのまはりの

まはりの

まはりの

楊

まはりの

まはりの

三羽
縁成



小上ノ八

珠の
申の架の

色成

七條

うた

五

まはりの

まはりの

真間野
川成



掃部人磨

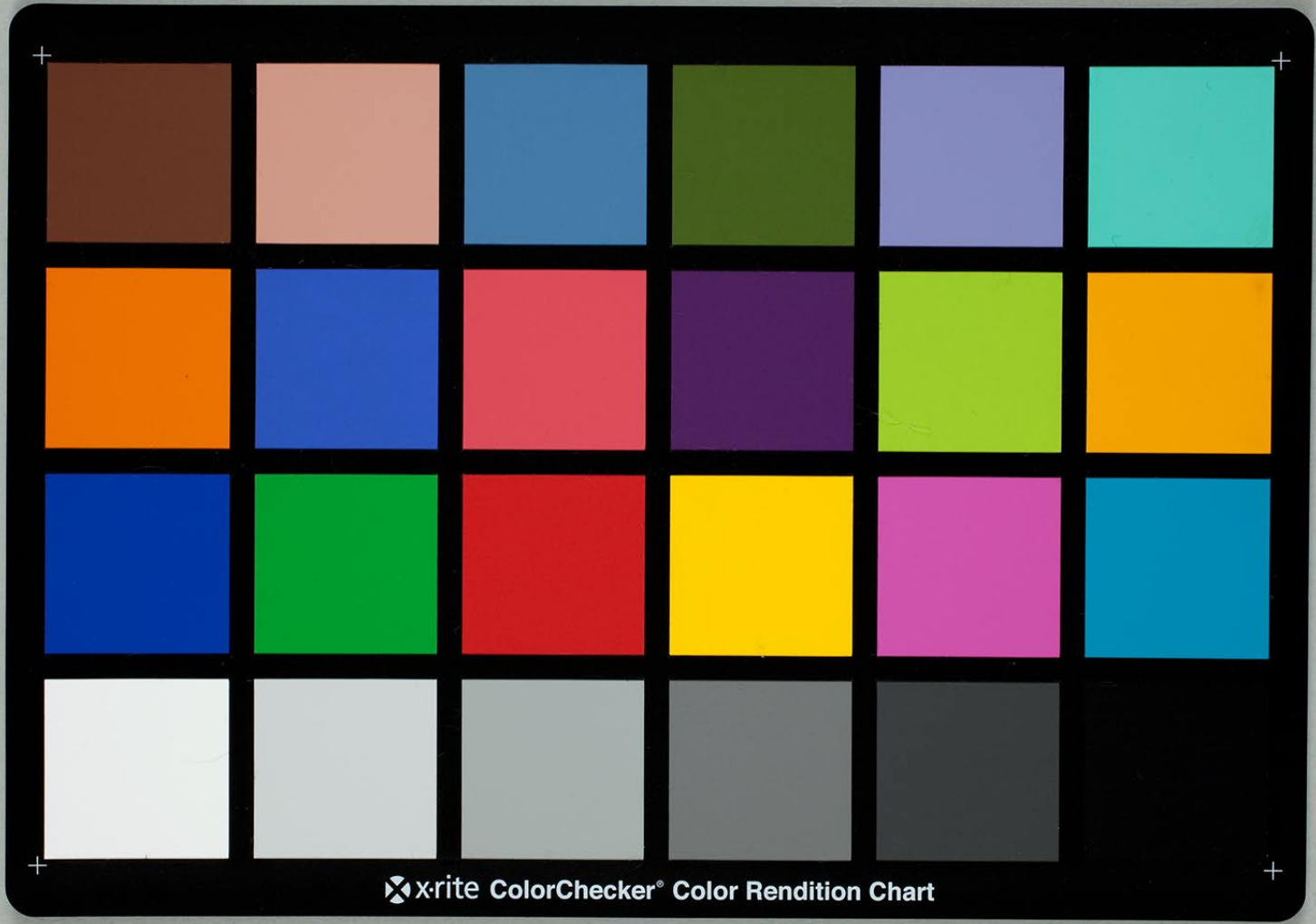
つきの月くひのくまる
 可いびきおのりの尾乃まろり尾の
 かぐくー一夜なむりかも移ん

迎世愛國す。カナリヤと云ふ小もほろ此以流石なれと駭し。ちもてまじ
 此も諸人中のひひふふなまきり。卵子とまむもまろり四くそく
 年月と逢う。いつちまむるとん考へ出。おひくは雛のま出来
 ちのすりま毛色すてま振るもはむとありこれとま
 あとふとま。ま小僧の傍に福居るにまけくま。うは
 カナリヤと雲一音くろの濡れる家ハ老人の隠居うらま
 むろくカナリヤと知れたの。まらまけくま。うらま。うは
 小上ノ十

いさろ 小のんきよ
 カナリヤと雲入していまけろ 老人 卵
 たぐくいなおちけ所のまらまけくま
 今とまおま雲入の
 角とえつ。そと葉葉がいの
 ちう遠あのみ。そとていで食
 かんせ ちこれの音まらまけくま此
 間く葉葉とまらまけくま雛
 ちうやに相持もまらまけくま。あやが。カナリヤとつまらまけくま。







xrite ColorChecker® Color Rendition Chart